

平成 28 年度 学校自己評価シート (私立 霞ヶ関高等学校)

目指す学校像	自主創造「夢の実現に向けて」
重点目標	1 生徒各自のペースで学習に取り組ませる 2 節度ある態度と言葉遣いを身につける。挨拶の励行。 3 自己の進路実現に向けた早期対応・対策の実行

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (3 月 現 在)			
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	今の時点での生徒の成績開示、または出席の開示を直ちに行えるかどうか。 生徒だけではなく、保護者が学校に来る機会にいかにかに学校のシステムについて理解してもらえるか。	教務	学習状況通知をこまめに発行する。 日々の授業においても、できるだけレポート、出席状況を確認する。 三者面談、保護者会等を行い、直接話をする機会を設け、理解を深める。	1 科目でも多い単位修得や一人でも多く卒業するか。 年間を通して、生徒が学習状況の理解が出来るか。	レポート等を積極的に授業中に扱うことで基礎の定着を図り、単位修得に結びつけた。 学習状況をこまめに発行し、それをもとに生徒と相談・面談を行った。 保護者会の回数を増やし、保護者の理解が深まった。	B	進路を念頭に、目標達成に向けて生徒自ら積極的に行動するよう促すことが出来るか。 生徒一人ひとりの能力に応じて、弱点克服及び学習意欲をいかに引き出し、学ぶ楽しさを伝えることが出来るか。 LHRの重要性を生徒に理解させ、学習だけではなく、就職や道徳教育などの充実が図れるか。
2	一定の緊張感を持った日々の生活の中で、教職員も言葉遣いに気を遣うようにする。 積極的にごみを拾ったり、清掃活動に参加するなどの指導が必要である。	生徒指導	教員の積極的な声掛けにより、生徒が自ら挨拶できるよう指導する。同時に目上の者に対する言葉遣いや態度も身に付けさせる。 ホームルーム等で、ごみの分別や公共物の扱いを徹底指導し、出来ているか巡回して確認する。	職員室への入室の仕方や、言葉遣いの指導を全教職員が共通の指導し、教職員もきちんとした対応をすることで、普段からある程度の緊張感を持って指導することができたか。 廊下や階段にゴミが落ちているか。 積極的な声掛けに伴い、生徒を『君、さん』をつけて呼ぶことを徹底する。	入室指導や、ホームルームでの徹底指導により、生徒の態度も安定している。様々な点で学校生活における生徒の意識が変わったと感ずることができた。	A	現状維持をしつつ、挨拶や積極的な行動が進路などにも応用ができるよう指導する。 学校生活における美化意識と、相手を思いやる心を養い、自ら考えて行動するよう指導をする。
3	本校は現在進学就職ともに生徒の動き始めが遅い。 この動き始めは、意識改革により変わるものと信じている。 昨年度は就職活動により力を入れ成果が出た。今年度以降それを維持し、また進学への意識改革を実践していく必要がある。 ここから5年間は勝負の年といえる。	進路指導	【進学】 より早い入試(機会増)を受験させることができるように多くのガイダンスや授業などを使いアナウンスしていく。 【就職】 就職率を維持するために、昨年度と同等の就職者対象の補習を行う。 より早くより確実な活動により、早期就職を確実にする。	【進学】 ガイダンスを行った後の生徒の反応、または生の声を聞くことにより、ガイダンスがふさわしいものであったのかを判断したい。 【就職】 最終的には就職率での判断となるが、そこまで行く過程の中での状況を客観的にも判断したい。 その他、次年度の生徒への成功体験例を蓄積できたかも判断材料となる。	【進学】 進学意識を持つ生徒が増えてきた。大学や専門学校の出願が早くなった。 【就職】 就職補講による粘りより、学校斡旋希望者は100%の目標を達成した。	B	【進学】 他の高校の現状、世の中の現状、受験戦争の話、または大学や専門学校の情報をより早く、より多くの場所や機械に生徒に話ができる様にする事で、早めの進路決定を確実にする。 【就職】 就職補習を通し、進路指導部と担任と生徒が密に、より良い就職先が受験し、決定できるように一人ひとりを手厚く指導する。